

通期業績予想の修正に関する 補足説明資料

2024年7月29日

当資料の目的



当社は、本日付開示「特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、2024年9月期（2023年10月1日～2024年9月30日）の通期連結業績予想を下方修正しました。

しかしながら、これは特別損失の計上等の一時的な要因によるものが大きく、来期（2025年9月期）は業績の回復が見込まれます。

当資料では、当社の現状と業績向上に向けた取り組みをご説明します。

【目次】

- 要旨 … P. 3
- 現状と業績向上に向けた取り組み … P. 4
- 配当 … P. 9

要旨



1. 電子カルテシステム

- 当社グループの主力事業であり、**連結売上高や利益の8割以上を占める電子カルテシステムの売上高・利益は順調に推移**しており、当期見込みも計画通りの進捗となっています。
- 従来から推進している営業力強化やコスト削減等に加え、**電子カルテシステムへのAI搭載や国が推進する医療DX政策への取り組み（「標準型電子カルテ」開発への参画等）**も行っており、将来的な競争力向上やビジネスチャンス獲得を着々と進めております。

2. 医薬品・医療機器等の臨床開発支援、デジタルマーケティング

- これらの売上が低迷した結果、特別損失を計上することとなりましたが、事業構造の変革やコスト削減等に取り組んでおり、業績のV字回復を実現します。
- 対象会社（マイクロン、サンカクカンパニー）の**のれんや固定資産を一括償却することにより、連結決算における来期以降の償却負担が軽減され、来期（2025年9月期）だけで約86百万円の収益改善効果**があります。

3. グループ全体の経営効率向上

- グループ会社間で重複・類似する機能や不採算事業の整理等、組織再編を積極的に実施します。

4. 配当

- 当初配当予想から変更はなく、**前期実績比で1株につき1円の増配（14円→15円）**とする方針です。（本年12月の定時株主総会に付議予定）
- 業績のV字回復により、来期以降も**増配**に努めて参ります。

現状と業績向上に向けた取り組み (電子カルテシステム)



1. 電子カルテシステムの業績 (※)

(※) ヘルスケアソリューション事業セグメントの売上高・セグメント利益から、「医薬品・医療機器等の臨床開発支援」の売上高・利益を除いた金額

- 売上高や利益は順調に推移しており、当期見込みも計画通りの進捗

金額：百万円	【前期】 23年9月期 3Q累計	【進行期】 24年9月期 3Q累計	前年同期比	
			金額	率
売上高	8,194	9,603	1,408	17.2%
セグメント利益	985	1,004	19	2.0%

- 本年1月に新製品 (MI・RA・Is V) の販売を開始したが、販売パートナーや市場での認知・浸透が進み、期末受注残高は前期末を上回る見込みで、来期以降も売上の伸長を予想している

現状と業績向上に向けた取り組み (電子カルテシステム)



2. 電子カルテシステムへのAI搭載

- 電子カルテシステム「MI・RA・Is」に「オンプレミスのAI」を搭載し、患者の診療情報を外部に出さずにAIを使用可能にする
 - ▶ シーエスアイの本日付プレス・リリース「電子カルテシステム『MI・RA・Is』にAIを搭載」をご参照ください
- 1日4時間程度を占めると言われる医師の事務作業のうち紹介状、診療サマリ、診断書などの文書作成支援からAI活用を開始し、さらには診療支援（診療アシスタント）まで発展させる計画（最終的には医師が確認・判断するが、大きな時間削減効果が見込まれる）
- 今後、電子カルテシステム「MI・RA・Is」を使用している医療機関において、AIの実装評価及び改善を行い、本年12月に製品版を発表する予定
- 7月10～11日に開催された、シーエスアイのMI・RA・Isユーザフォーラム大会及びシステム展示会に参考出展し、大きな反響をいただいた

3. 国が推進する医療DX政策への取り組み（一部を例示）

- 「標準型電子カルテ」開発への参画
- 電子カルテ情報共有サービスのモデル事業への参画
 - ▶ 山形県、北海道を中心に、モデル事業地域とするプロジェクトに参画予定
- 電子処方箋の導入・活用推進

現状と業績向上に向けた取り組み

(医薬品・医療機器等の臨床開発支援、デジタルマーケティング)

1. 経営の強化

- ・ 特別損失計上の直接の原因となったこれらの事業については、本年4月から対象会社（マイクロン、サンカクカンパニー）の代表権を当社取締役が持ち、業績のV字回復を進めている

2. 事業構造の変革やコスト削減

(1) 各社共通

- ・ 事業の選択と集中
- ・ 人件費の抑制と増員を前提としない事業モデルの立ち上げ

(2) マイクロン

- ・ 成長領域であり、国内外から多数の引き合いを受けているプログラム医療機器（SaMD：Software as a Medical Device）の開発や認証・承認取得支援に経営資源を集中させ、当該分野で国内No.1の地位を確立する
 - ▶ マイクロンの本日付プレス・リリース「プログラム医療機器（SaMD）開発支援強化に向けたリベルワークスとの協業について」をご参照ください
- ・ 強みである医用画像解析サービスにおいて、データを活用するAI開発等を行い、さらに競争力を強化する
- ・ 短期的変化の激しい国内治験市場に依存しない事業構造への転換を早期に進める

現状と業績向上に向けた取り組み

(医薬品・医療機器等の臨床開発支援、デジタルマーケティング)

(3) サンカクカンパニー

- Webサイト制作単体は、顧客企業での内製化や競争激化により売上高や利益が減少傾向であり、サンカクカンパニーが強みを持つ各種サービスと組み合わせて高付加価値化し、受注増につなげる（高いレベルのアクセス解析やUI/UX調査、広告の制作・運用、企業向けオリジナル講座やコンサルティング等による内製化支援、等）
- 事業領域の拡大（生成AIを活用したクリエイティブ制作、ノーコード制作ツールを利用したパッケージ販売等、人員増に頼らない事業確立に特に注力）
- 当社グループのマーケティング力強化への貢献

3. 対象会社の のれんや固定資産を一括償却することによる連結決算への影響

- 当期連結決算で特別損失を計上することとなったが、その一方で来期以降の償却負担が軽減

のれん償却額	連結決算上、約36百万円/年の負担軽減
固定資産減価償却費	対象会社決算上、約49百万円/年の負担軽減
	来期だけで、約86百万円の償却負担軽減

現状と業績向上に向けた取り組み

(グループ全体の経営効率向上)

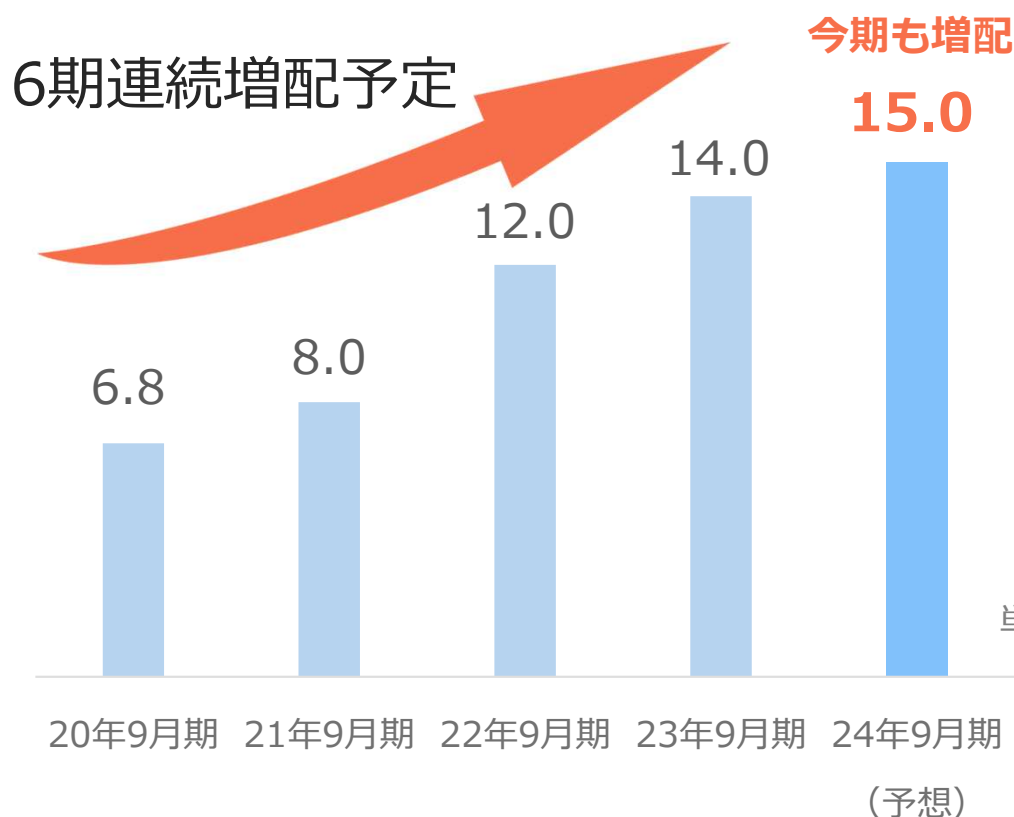


- マイクロン、サンカクカンパニーに限らず、グループ会社間で重複・類似する機能や不採算事業の整理等、組織再編を積極的に実施
- グループ全体の経営効率と管理水準を向上させ、グループの一体化をより強化するため、グループ各社の管理業務を当社に集約することを検討
- オフィスの集約等による販管費の削減
 - Mocosuku、サンカクカンパニーのオフィスを、当社東京ビル内に移転
 - マイクロンはテレワーク業務を拡大し、本社オフィス移転を機にスペース半減

配当



株主尊重を第一義として考え、経営基盤の一層の強化と事業拡大に必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への利益還元を継続して実施していくことが、配当に関する基本方針であり、**当初配当予想からの変更はなく、前期実績比で1株当たり1円の増配（14円→15円）とする方針**。（本年12月の定時株主総会に付議予定）
業績のV字回復により、来期以降も**増配**に努めて参ります。



最低売買単位・金額
100株・54,000円 (※)
→ 1,500円の配当
配当利回り：約2.8%

※ 2024年7月26日の株価終値540円



通期業績予想の修正に関する 補足説明資料

本資料に含まれる業界の動向や分析、今後の見通し、施策等は、現時点における情報に基づき判断したものであります。従いまして、将来の業績等につきましては、今後様々な要因により、大きく異なる可能性があります。
投資を行う際は、利用者ご自身のご判断で行われますようお願いいたします。

(連絡・お問合せ)
株式会社CEホールディングス
経営・事業企画室
TEL.011-861-1600